

特集 SDGs for Fukuchi

この町を持続可能にするためのヒント、探してみました。

2040年に消滅してしまうかもしれない「消滅可能性自治体」に選ばれてしまった福智町。この自然豊かな故郷を、大切な子どもたちに繋いでいくにはどうすればいいのでしょうか？



SDGsとは、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標です。「持続可能」とは、「何かをし続けられる」といいます。

2015年に日本創生会議から、2040年に若年女性(20〜39歳の若年)人口が5割以下に減少する「消滅可能性都市」に選ばれてしまった福智町。できれば外れて欲しい予想です。「誰一人取り残さず」福智町が「存在し続けられる」にはどうしたらいいのでしょうか？町の財政健全化は勿論のことですが、今回は、全国的に取り沙汰されているローカル鉄道の在り方に関連して、福智町の重要な公共交通、平成筑豊鉄道の持続可能な在り方や、福智町のSDGsの取り組みを特集します。



↑SDGsには17の目標と169のターゲットから構成されています。SDGsは、みんながひとつしかないこの地球で暮らし続けられる「持続可能な世界」を実現するために進むべき道を示したナビのようなもの。



持続可能な公共交通を 目指して

「平成筑豊鉄道」。守らなければならぬ地域の「足」――

持続可能な町には持続可能な公共交通が必要です。少子高齢化が進み、交通空白地域が多い福智町にとって、公共交通の有無は死活問題。もし無くなってしまったら、どうやって通学するの？車を運転できない高齢者の通院、買い物の足は？さらなる人口減が進むことは容易に想像できません。

福智町の重要な公共交通の一つである平成筑豊鉄道。平成元年に地元の期待を背負い開業以来10年間黒字を続け、3セク鉄道の優等生として脚光を浴びました。しかし、平成16年に「大口顧客」の鉱山会社が事業を撤退し、収入源の16%を占める貨物輸送を失い赤字経営に転



落。さらに沿線人口の減少、少子高齢化、マイカー社会の進展により乗客が減少、度重なる豪雨災害やコロナ禍も追い打ちをかけ、令和2年度の乗客数はピーク時の平成4年度の半数にまで減少し、令和4年3月期決算で25年連続の営業赤字を計上しました。

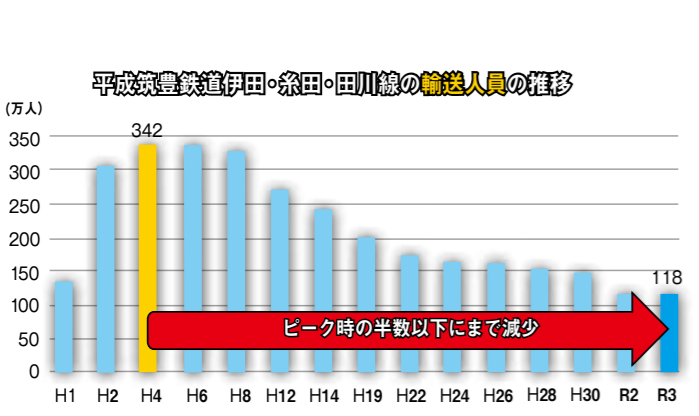
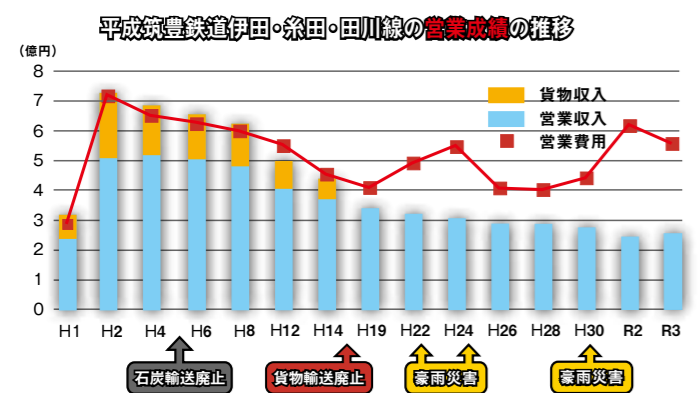
平成筑豊鉄道の「現状」を河合社長に聞く――

「全国的に鉄道の維持が大変厳しい状態ですが、我々中小ローカル鉄道は3つの共通課題(①沿線の人口減少、②施設の老朽化、③大雨や台風などの自然災害)を抱えており、基本的に沿線市町村の補助金で成り立っている状況です。現在はさらにコロナ禍がお客様の減少に追い打ちをかけていて



平成筑豊鉄道 河合賢一代表取締役社長

平成筑豊鉄道初の公募社長として、88人の候補者から選ばれ平成29年10月に就任。東京大学理工I類中退後、大分県職員、九州産交バス取締役を経て現職。



平筑の場合も全く同様です。沿線人口は減少の二途。新規客を呼び込む様々な取り組み。「少子高齢化の進展で沿線人口は今後も減少すると考えられるため、経営の維持には外部から新規客を呼び込むことが必要。そのために様々な取り組みを行っています。令和元年3月にデビューした「ことと列車」は「ななつ星」を手掛けた水戸岡鋭治さんがデザインした車両で、ミシュランガイド「一つ星店シェフ監修のフレンチコースを楽しめる列車」。

上質な体験が好評です。また、世界的アーティストのミヤザケンスケさんと福智町の子どもたちが車両をメインとした「スーパーハッピートレイン」はSNSで「映える列車」として話題に。新規客を取り込むには、情報発信することが今の時代重要です。また、毎月のイベントでは、お子様にへいちくファンになっていただくことで、息の長いお客様を増やしていただくと考えています。このような取り組みで増収とともに地域活性化にも繋がっていきたくと考えています」。